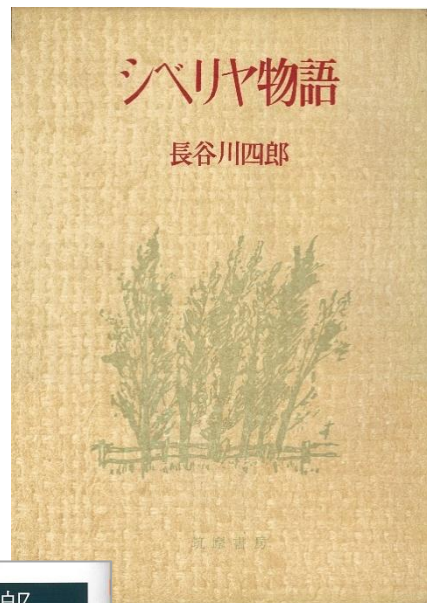


講演会

『シベリヤ物語』と 戦後文学の試み

講師：前田和男（ノンフィクション作家）

戦後八十年。
戦争を体験した世代が減っていく中で、長く読み継がれていってほしい文学作品の一つに長谷川四郎の『シベリヤ物語』があります。捕虜として過ごしたシベリアでの体験を、抑制された語りで、そして深く描いた作品です。
編集者・翻訳家・選挙参謀としても知られる異色のノンフィクション作家・前田和男氏が、長谷川文学の魅力と、戦後の言論空間を読み解きます。



上：
長谷川四郎『シベリヤ物語』筑摩書房
1952年
左
『シベリヤ物語
——長谷川四郎傑作選』
ちくま文庫 2024年



2025

10月19日（日）

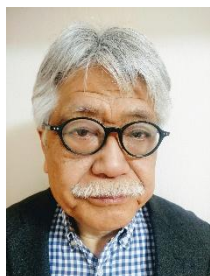
14:00～15:30

当館講堂（無料）

＊お電話でお申し込みが必要です。

011-511-7655（北海道立文学館）

先着順、定員 60 名



前田 和男 まえだ かずお

1947年生まれ。東京大学農学部卒。日本読書新聞編集部勤務を経て、ノンフィクション作家、翻訳家、編集者。路上観察学会事務局。『のんびる』（パルシステム生協連合会）編集長。著作に『昭和 街場のはやり歌（正・続）』（彩流社）、『冤罪を晴らす！』（ビジネス社）、『炭鉱の唄たち』（ポット出版プラス）、『男はなぜ化粧をしたがるのか』（集英社新書）、『足元の革命』（新潮新書）『選挙参謀』（太田出版）ほか。『炭鉱の唄たち』では、北海盆唄などの炭鉱唄のルーツに迫る。近著に『カチューシャとウクライナ戦争』（彩流社、2025、右に掲載）。訳書にO・ハラール『コリン・パウエル リーダーシップの法則』（KKベストセラー）、イーグルトン『悪とは何か』（ビジネス社）ほか。



特別展「長谷川四郎とそのきょうだい」

2025年9月6日（土）～11月9日（日） 北海道立文学館特別展示室

大正から昭和、文学や絵画などに独自の足跡を記した函館出身の4人の兄弟——長谷川海太郎、湊二郎、濤、四郎の活躍を紹介します。中でも、戦後文学に特異な位置を占める四郎の仕事に注目します。

